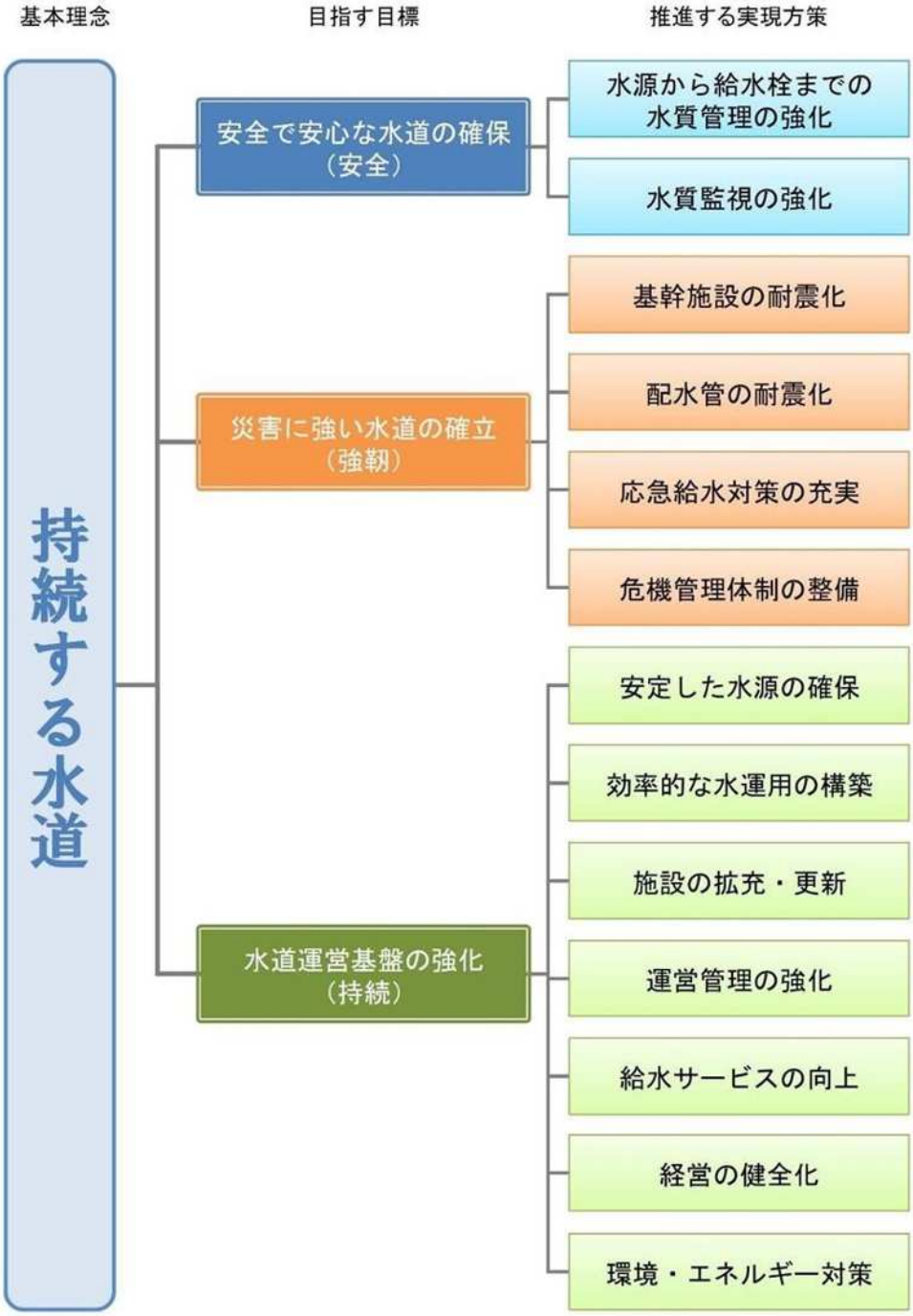
第２次津市水道事業基本計画（平成３０年度ー令和９年度）における事業評価報告書（令和４年度）

平成３０年３月に策定した「第２次津市水道事業基本計画」における令和４年度事業の年次評価結果は、次のとおりとなりました。

１　事業評価の項目

「第２次津市水道事業基本計画」において、下記のとおり目指す目標を３つで体系化し、推進する実現方策ごとに事業評価を実施しました。



２　年次評価

本計画の計画期間は令和９年度までの１０年間です。計画に掲げた実現方策を着実に推進できているか進捗管理を毎年度実施します。

また、推進する実現方策ごとに実施した主な事業の分析を行い、下記総合評価の区分により自己評価を行います。

事業の推進にあたっては、推進する実現方策に対する指標や年度毎の事業実績等により、津市上下水道事業経営審議会からの検証を受けることによって、今後の水道事業の運営に活用していくこととしています。

（総合評価の区分）

総合評価	今後の取組方針
A	目標を上回る事業進捗であり引き続き事業を進める。
	目標を上回る事業進捗ではあるが、今後、計画との乖離が予想されることから見直しを検討する。
	計画どおり事業が進んでおり引き続き事業を進める。
B	目標を上回る事業進捗ではあるが、今後、中止の場合の代替措置を検討する。
	目標どおり事業が進んでいるが、今後、計画との乖離が予想されることから見直しを検討する。
	目標を下回る事業進捗ではあるが、計画との乖離が軽微であることから目標達成に向けて事業を進める。
C	計画どおり事業が進んでいるが、今後、中止の場合の代替措置を検討する。
	目標を下回る事業進捗であり、今後、計画との乖離が大きいことから見直しを検討する。
	課題を整理し計画の再構築をする。

令和４年度　第２次津市水道事業基本計画評価シート

１　計画概要（PLAN）

計画コード	20-01-01-01

所管する所属	上下水道事業局（水道施設課）		
基本理念	01 持続する水道	計画関連ページ	P37,P38,P48
目指す目標	01 安全で安心な水道の確保（安全）		
推進する実現方策	01 水源から給水栓までの水質管理の強化		
推進する実現方策を達成するための主な施策	水質検査計画に基づく検査の実施 水安全計画の策定及び運用 県企業庁との連携による水質検査体制の強化		

指標	①　原水、浄水及び給水栓に係る毎月検査回数				
	②　原水、浄水及び給水栓に係る全項目検査回数				
目標値	単年度	①　12　回	令和９年度（計画最終年度/累積）	①　120　回	
		②　4　回		②　40　回	

２　実施結果（DO）

実施した主な事業	【水質検査計画に基づく検査の実施】 水道法施行規則第15条第6項に基づき、原水、浄水及び給水栓における検査項目、検査頻度、検査場所を定めるもので、津市ホームページにより公表しており、その水質検査計画に基づき水源、浄水場及び市内給水栓水の水質検査を実施している。 【水安全計画の策定及び運用】 平成３０年度に策定した水安全計画に基づき、水源毎のリスクを把握し、危機事象が発生した場合における対応方法・体制等を確立した。今後も、同計画を運用することにより、水質面での危機管理能力を向上させ、安全で安心な水道水を提供する。 【県企業庁との連携による水質検査体制の強化】 水質検査の精度と信頼性を確保するため、三重県が水道水の水質検査機器の精度を適正に管理するとともに検査担当者の技術の向上と正確な水質検査結果を得ることを目的として設置した三重県精度管理協議会の外部精度管理に三重県企業庁及び関係団体とともに参加し、共通試料による各機関一斉測定やその後の意見交換により課題を相互共有した。				
	実施後の値（単年度）	①　12　回	実施後の値（累積）	①　60　回	
		②　4　回		②　20　回	

３　事業の分析（CHECK）

進捗状況	☐　目標の進捗を上回る　☑　目標どおりの進捗　☐　目標の進捗を下回る				
説明	水質検査は、水質検査計画に基づき実施するとともに、原水検査による各水源のリスク管理を実施している。また、三重県精度管理協議会へ定期的に参加し意見交換等を行っている。				
	達成率（単年度）	①　100.00　%	達成率（累積）	①　50.00　%	
		②　100.00　%		②　50.00　%	

４　今後の方向性（ACTION）

事業の方向性	☑　中間見直し通り推進　☐　見直しの必要あり　☐　中止				
今後の取組方針	総合評価	A			
	水質検査計画に基づき、引き続き水源から給水栓までの水質管理を実施し水安全計画の効率的な運用と水質検査結果を公表し、市民が安心して利用できる水道水質の管理を行っていく。				

５　津市上下水道事業経営審議会の意見

評定	適正	説明・意見	

令和４年度　第２次津市水道事業基本計画評価シート

１　計画概要（PLAN）

計画コード	20-01-01-02

所管する所属	上下水道事業局（水道施設課）		
基本理念	01 持続する水道	計画関連ページ	P37,P39
目指す目標	01 安全で安心な水道の確保（安全）		
推進する実現方策	02 水質監視の強化		
推進する実現方策を達成するための主な施策	水源から配水系統末端までの水質監視強化 津市水道水源保護条例に基づいた水質汚濁の防止 配水池等の定期的な水質調査		

指標	①	―			
	②	―			
目標値	単年度	①	―	令和９年度（計画最終年度/累積）	① ―
		②	―		② ―

２　実施結果（DO）

実施した主な事業	【水源から配水系統末端までの水質監視強化】 鈴鹿川、雲出川、櫛田川、宮川の河川及び水路に関わる水質保全に関する国、県、市町等の相互の連絡調整を図ることを目的とする三重四水系水質保全連絡協議会（事務局：国土交通省三重河川国道事務所）との連携で、雲出川に係る水質事故等へ迅速に対応するものであるが、令和４年度は水質事故がなかった。 【津市水道水源保護条例に基づいた水質汚濁の防止】 水源保護地域において、対象事業である採石業、砂利採取業及び産業廃棄物処理業の事業場を設置する者は、津市上下水道事業管理者に事前協議しなければならないとなっており、令和５年３月に産業廃棄物処理事業場を設置する者から対象事業実施協議書が提出され、規制対象事業場としての認定の当否について、津市水道水源保護審議会に諮問を行った。 【配水池等の定期的な水質調査】 特に夏場の配水池において、滞留による塩素消費により、塩素濃度の低下が懸念される場合は、定期的に水質調査を実施しているが、令和４年度は塩素濃度の低下はなかった。また、配管工事完成後通水時の水質基準に適合するかの臨時検査については、すべてにおいて適合していた。			
	実施後の値（単年度）	① ―	実施後の値（累積）	① ―
		② ―		② ―

３　事業の分析（CHECK）

進捗状況	☐ 目標の進捗を上回る	☑ 目標どおりの進捗	☐ 目標の進捗を下回る	
説明	令和５年３月に水道水源保護条例の規定に基づき対象事業実施協議書が提出されたことから、その事業場が規制対象事業場に該当するか否かを津市水道水源保護審議会に諮問を行った。審議会は、令和５年度に開催される。 また、令和４年度は、水源事故等の発生や日常の配水池等の水質検査などの管理以外、新しい配水池の設置などによる臨時的に実施する事業はなかったが、配管工事完成後の臨時検査については、水質基準にすべて適合していた。			
	達成率（単年度）	① ― %	達成率（累積）	① ― %
		② ― %		② ― %

４　今後の方向性（ACTION）

事業の方向性	☑ 中間見直し通り推進	☐ 見直しの必要あり	☐ 中止	
今後の取組方針	総合評価	A		
	引き続き、水質監視の強化、水質汚濁の防止及び定期的な水質調査を行っていく。			

５　津市上下水道事業経営審議会の意見

評定	適正	説明・意見	

令和４年度　第２次津市水道事業基本計画評価シート

１　計画概要（PLAN）

計画コード	20-01-02-01

所管する所属	上下水道事業局（水道施設課）		
基本理念	01 持続する水道	計画関連ページ	P37,P40,P48,P49
目指す目標	02 災害に強い水道の確立（強靭）		
推進する実現方策	01 基幹施設の耐震化		
推進する実現方策を達成するための主な施策	浄水場の耐震化 配水池の耐震化 ポンプ場の耐震化		

指標	①　浄水場の耐震化事業件数			
	②　配水池の耐震化事業件数			
目標値	単年度	①　0　件	令和９年度（計画最終年度/累積）	①　2　件
		②　0　件		②　8　件

２　実施結果（DO）

実施した主な事業	【浄水場の耐震化】 耐震診断において補強が必要と判断された浄水場については、耐震化を進めている。令和４年度は未実施。 【配水池の耐震化】 耐震診断が済んでいない施設の診断を実施し、補強工事の要否を判断するため、令和４年度は、芸濃南山、美里穴倉低区、美里高座原低区、計３配水池の耐震二次診断業務を実施した。 【ポンプ場の耐震化】 令和２年度から耐震二次診断を行う予定であったが、配水池の二次診断を優先することとし、補強工事については、令和７年度から実施する予定である。			
	（単年度）	①　0　件	実施後の値（累積）	①　0　件
		②　0　件		②　0　件

３　事業の分析（CHECK）

進捗状況	☐　目標の進捗を上回る　☑　目標どおりの進捗　☐　目標の進捗を下回る			
説明	浄水場の耐震化工事について令和４年度は未実施であるが、計画期間の進捗としては、計画どおり進んでいる。			
	達成率（単年度）	①　% ②　%	達成率（累積）	①　0.00　% ②　0.00　%

４　今後の方向性（ACTION）

事業の方向性	☑　中間見直し通り推進　☐　見直しの必要あり　☐　中止	
今後の取組方針	総合評価	A
	浄水場及び配水池などの基幹施設の耐震化には、配水ブロックの見直しなどによる非耐震施設の廃止を含め、引き続き計画的・効率的に耐震診断を進めるとともに診断により耐震補強が必要とされる施設については、耐震化の際、水運用に影響を与える施設もあるため、市民生活に影響を与えないよう計画的に実施していく。	

５　津市上下水道事業経営審議会の意見

評定	適正	説明・意見	

令和４年度　第２次津市水道事業基本計画評価シート

1　計画概要（PLAN）

計画コード	20-01-02-02

所管する所属	上下水道事業局（水道工務課）		
基本理念	01 持続する水道	計画関連ページ	P37,P41,P48,P50,P51
目指す目標	02 災害に強い水道の確立（強靭）		
推進する実現方策	02 配水管の耐震化		
推進する実現方策を達成するための主な施策	基幹管路の耐震化 老朽管の更新 管路のループ化・連絡管整備		

指標	① 基幹管路の耐震化整備済延長				
	② 老朽管の更新済延長				
目標値	単年度	① 2.4 km	令和９年度（計画最終年度/累積）	① 13.0 km	
		② 5.3 km		② 98.0 km	

2　実施結果（DO）

実施した主な事業	【基幹管路の耐震化】 老朽度だけではなく病院等の重要施設や指定避難所となっている応急給水拠点への供給ルート等を考慮して更新を進めている。令和４年度は、森町地内配水管布設工事、ほか４件を実施した。 【老朽管の更新】 漏水状況及び他事業との同調施工を考慮して更新を進めている。令和４年度は、白山町八対野地内配水管布設工事、ほか３０件を実施した。 【管路のループ化・連絡管整備】 令和４年度は、該当工事なし。				
	実施後の値（単年度）	① 1.1 km	実施後の値（累積）	① 6.8 km	
		② 7.1 km		② 68.2 km	

3　事業の分析（CHECK）

進捗状況	☑ 目標の進捗を上回る　☐ 目標どおりの進捗　☐ 目標の進捗を下回る				
説明	基幹管路の耐震化整備延長については令和４年度目標を下回ったが、老朽管の更新済延長については令和４年度目標を上回り、また、折り返しとなる５年目の累積についても、各指標において目標を上回る結果となった。				
	達成率（単年度）	① 45.22 %	達成率（累積）	① 52.42 %	
		② 135.59 %		② 69.58 %	

4　今後の方向性（ACTION）

事業の方向性	☑ 中間見直し通り推進　☐ 見直しの必要あり　☐ 中止	
今後の取組方針	総合評価	A
	中長期的な経営基盤の強化のため、施設の統廃合やバックアップ等を検討し、第２次津市水道事業基本計画の中間見直しにより、一部管路更新計画の変更を行った。 今後も安全・安心な水道水を安定的に供給するため、計画に沿った管路整備に取り組む。	

5　津市上下水道事業経営審議会の意見

評定	適正	説明・意見	

令和４年度　第２次津市水道事業基本計画評価シート

１　計画概要（PLAN）

計画コード	20-01-02-03

所管する所属	上下水道事業局（水道工務課・水道施設課）		
基本理念	01 持続する水道	計画関連ページ	P37,P42,P48
目指す目標	02 災害に強い水道の確立（強靭）		
推進する実現方策	03 応急給水対策の充実		
推進する実現方策を達成するための主な施策	給水基地及び応急給水拠点の整備（配水池等への緊急遮断弁の設置） 応急資機材の備蓄（貯水槽、給水袋等） 給水車（４ｔ）の配備		

指標	①　緊急遮断弁設置数			
	②　仮設貯水槽の購入基数			
目標値	単年度	①　0　箇所	令和９年度（計画最終年度/累積）	①　16　箇所
		②　3　基		②　24　基

２　実施結果（DO）

実施した主な事業	【給水基地及び応急給水拠点の整備】 令和４年度は、緊急遮断弁の設置なし。 【応急資機材の備蓄】 当該計画期間内で２４基を購入する予定である。令和４年度は、３基購入した。 【給水車（４ｔ）の配備】 給水車（４ｔ）は、平成２９年度に１台配備済みであるが、令和４年度に新たな配備は実施しなかった。			
	実施後の値（単年度）	①　0　箇所	実施後の値（累積）	①　5　箇所
		②　3　基		②　10　基

３　事業の分析（CHECK）

進捗状況	☐　目標の進捗を上回る　☑　目標どおりの進捗　☐　目標の進捗を下回る			
説明	貯水槽が無い指定避難所の解消に向け、令和4年度は仮設貯水槽を3基購入した。			
	達成率（単年度）	①　0.00　%	達成率（累積）	①　31.25　%
		②　100.00　%		②　41.67　%

４　今後の方向性（ACTION）

事業の方向性	☑　中間見直し通り推進　☐　見直しの必要あり　☐　中止	
今後の取組方針	総合評価	A
	引き続き、災害発生時における迅速な応急給水や応急復旧を可能とするため、給水基地及び応急給水拠点の整備や応急資機材の備蓄に努める。緊急遮断弁の設置は、耐震性を有する施設へ設置するため、耐震診断等の結果を踏まえ計画を変更し設置を進める。仮設貯水槽については、貯水槽が無い指定避難所の解消に向け計画的に購入を進める。 また、災害支援（応援）でも使用できるような貯水槽の導入を図る。	

５　津市上下水道事業経営審議会の意見

評定	一部不適正	説明・意見	

令和４年度　第２次津市水道事業基本計画評価シート

１　計画概要（PLAN）

計画コード	20-01-02-04

所管する所属	上下水道事業局（水道工務課・水道施設課）・上下水道管理局（上下水道管理課）		
基本理念	01 持続する水道	計画関連ページ	P37,P42
目指す目標	02 災害に強い水道の確立（強靭）		
推進する実現方策	04 危機管理体制の整備		
推進する実現方策を達成するための主な施策	防災訓練の充実 防災計画・マニュアルの継続した更新 応援協定締結に基づく受援体制の整備		

指標	① 公益社団法人日本水道協会（以下「日水協」という。）中部地方支部の災害時相互応援協定に基づく応急復旧・応急給水、情報伝達の訓練の参加回数				
	② 松阪市との災害時における水道水の相互融通に関する協定に基づく融通訓練の参加回数				
目標値	単年度	① 各 1 回	令和９年度（計画最終年度/累積）	① 各 10 回	
		② 1 回		② 10 回	

２　実施結果（DO）

実施した主な事業	【防災訓練の充実】 日水協中部地方支部の県支部９市により毎月１回実施される衛星電話を使用した通信訓練に参加した。 日水協中部支部の「３県（静岡県、愛知県、三重県）合同水道防災訓練（開催地：鈴鹿市）」に参加した。 【防災計画・マニュアルの継続した更新】 年度当初において、災害対策本部の上下水道総務班、水道班および下水道班が、相互に応援できるよう人員配置を見直した。 【応援協定締結に基づく受援体制の整備】 令和４年6月１７日に、災害時における水道水の相互融通に関する協定に基づき、松阪市と合同で融通訓練を実施した。			
	実施後の値（単年度）	① 各 1 回	実施後の値（累積）	① 各 5 回
		② 1 回		② 5 回

３　事業の分析（CHECK）

進捗状況	☐ 目標の進捗を上回る　☑ 目標どおりの進捗　☐ 目標の進捗を下回る			
説明	参集方式による３県合同防災訓練に参加するとともに松阪市との合同融通訓練を実施した。また、毎月、衛生電話を使用した通信訓練に参加した。			
	達成率（単年度）	① 100.00 %	達成率（累積）	① 50.00 %
		② 100.00 %		② 50.00 %

４　今後の方向性（ACTION）

事業の方向性	☑ 中間見直し通り推進　☐ 見直しの必要あり　☐ 中止		
今後の取組方針	総合評価	A	
	引き続き、防災計画やマニュアルなどを基に定期的に訓練を実施し、マニュアルなどの改善を図る。また、本市で対応できない事案が発生した場合は、応援協定に基づく受援体制の整備を進める。今後も関係機関と訓練や情報交換を実施し、特定の職員のみが参加するのでなく未経験者も参加させることで災害時の対応強化を図る。また、津市地域防災計画や上下水道事業業務継続計画（BCP）等の更新を適宜行う。		

５　津市上下水道事業経営審議会の意見

評定	適正	説明・意見	

令和４年度　第２次津市水道事業基本計画評価シート

１　計画概要（PLAN）

計画コード	20-01-03-01

所管する所属	上下水道事業局（水道工務課・水道施設課）		
基本理念	01 持続する水道	計画関連ページ	P37,P43,P48,P50,P51
目指す目標	03 水道運営基盤の強化（持続）		
推進する実現方策	01 安定した水源の確保		
推進する実現方策を達成するための主な施策	自己水源と県営水道（雲出川系、長良川系）の配分量の見直し		

指標	①	―			
	②	―			
目標値	単年度	①	―	令和９年度（計画最終年度/累積）	① ―
		②	―		② ―

２　実施結果（DO）

実施した主な事業	【自己水源と県営水道の配分量の見直し】 河芸地域及び安濃地域の複数の自己水源（地下水）の枯渇傾向や水質悪化等を安定した県水受水に切り替え、複数の水源や浄水場を廃止し、更新需要の抑制を図ることができる。令和４年度は、８月に河芸豊津浄水場を停止し、県営水道に切り替えた。 ※「指標」、「目標値」は、日々の水道の使用状況や天候等により自己水源と県営水道の比率が変動することから設定しない。				
	実施後の値（単年度）	①	―	実施後の値（累積）	① ―
		②	―		② ―

３　事業の分析（CHECK）

進捗状況	☐ 目標の進捗を上回る　☑ 目標どおりの進捗　☐ 目標の進捗を下回る				
説明	河芸地域の河芸豊津浄水場については、大里受水場から管路を延伸し、自己水源から県営水道に切替を実施した。 ※令和４年度末の自己水源と県営水道の比率は、４２：５８となった。				
	達成率（単年度）	①	― %	達成率（累積）	① ― %
		②	― %		② ― %

４　今後の方向性（ACTION）

事業の方向性	☑ 中間見直し通り推進　☐ 見直しの必要あり　☐ 中止	
今後の取組方針	総合評価	A
	引き続き、自己水源と県営水道の最適なバランスを検討し、安定した水源の確保に努める。 また、津地域南部（高茶屋配水ブロック及び三雲配水ブロック）への県水を利用したバックアップ体制の構築について検討を進める。	

５　津市上下水道事業経営審議会の意見

評定	適正	説明・意見	

令和４年度　第２次津市水道事業基本計画評価シート

1　計画概要（PLAN）

計画コード	20-01-03-02

所管する所属	上下水道事業局（水道工務課・水道施設課）		
基本理念	01 持続する水道	計画関連ページ	P37,P43,P48,P50,P51
目指す目標	03 水道運営基盤の強化（持続）		
推進する実現方策	02 効率的な水運用の構築		
推進する実現方策を達成するための主な施策	配水ブロックの見直し（津、河芸、安濃地域）		

指標	①	配水ブロックの切替え対象となる総戸数（※　平成31年2月20日現在の給水戸数により設定。）
	②	－

目標値	単年度	① 1,900 戸	令和９年度（計画最終年度/累積）	① 16,680 戸
		② －		② －

2　実施結果（DO）

実施した主な事業	【配水ブロックの見直し】 安濃地域については、安濃県水受水点の新設が完了し、令和３年６月から運用を開始した。（全量を県営水道に切り替えるのではなく、比率５０：５０で運用を行っている） 河芸地域については、河芸豊津浄水場を令和４年８月に休止し、県営水道に切り替えた。			
	実施後の値（単年度）	① 1,935 戸	実施後の値（累積）	① 9,206 戸
		② －		② －

3　事業の分析（CHECK）

進捗状況	☐ 目標の進捗を上回る	☑ 目標どおりの進捗	☐ 目標の進捗を下回る	
説明	安濃地域は、県営水道と自己水源をブレンドし配水しているが、原水の水質や枯渇傾向等、安定性に欠けるため、県営水道への切替を進める。 河芸地域は、河芸豊津浄水場を県営水道に切り替えたことにより、全地域で県営水道の活用が可能となった。			
	達成率（単年度）	① 101.84 %	達成率（累積）	① 55.19 %
		② － %		② － %

4　今後の方向性（ACTION）

事業の方向性	☑ 中間見直し通り推進	☐ 見直しの必要あり	☐ 中止	
今後の取組方針	総合評価	A		
	各地域で県営水道を活用した配水ブロックの見直しを行ってきたが、引き続き、地形の高低差や県営水道を効率的に活用した水運用を図り、施設の統廃合を進めるなど、コスト及びエネルギー消費量の削減に取り組んでいく。			

5　津市上下水道事業経営審議会の意見

評定	適正	説明・意見	

令和４年度　第２次津市水道事業基本計画評価シート

1　計画概要（PLAN）

計画コード	20-01-03-03

所管する所属	上下水道事業局（水道工務課・水道施設課）		
基本理念	01 持続する水道	計画関連ページ	P37,P43,P44,P48,P50
目指す目標	03 水道運営基盤の強化（持続）		
推進する実現方策	03 施設の拡充・更新		
推進する実現方策を達成するための主な施策	片田浄水場の更新（電気計装設備の更新） アセットマネジメントの実践（資産の状態監視、計画的な更新、ダウンサイジング） クリプトスポリジウム対策（紫外線処理設備など）の実施		

指標	①　片田浄水場の電気計装設備等の更新事業件数				
	②　機械・電気設備の更新件数				
目標値	単年度	①　3　件	令和９年度（計画最終年度/累積）	①　9　件	
		②　15　件		②　74　件	

2　実施結果（DO）

実施した主な事業	【片田浄水場の更新】 片田浄水場の更新は、令和４年度末に完了した。 【アセットマネジメントの実践】 各水道施設の状態監視に基づき、施設の統廃合やダウンサイジングなどを踏まえた計画的な更新を行うため、令和４年度は、老朽施設を計画的に更新するため、下記の更新工事等を実施した。「高茶屋浄水場３号及び４号配水ポンプ更新工事」、「三雲浄水場急速ろ過設備排水ゲート更新工事」、「夢が丘ポンプ場送水ポンプ更新工事」、「三雲浄水場場内機械設備等更新工事」、「安濃中央浄水場及び安濃妙法寺浄水場高圧受変電設備更新工事」、「美里中野高宮浄水場１号及び３号原水ポンプ更新工事」、「津市上水道施設遠方監視設備機能増設工事」、「高茶屋浄水場電気計装設備等更新工事」、「芸濃北神山浄水場取水井設置工事」、「津市水道施設台帳管理システム導入業務委託」。 【クリプトスポリジウム対策の実施】 芸濃北神山浄水場の水質については、クリプトスポリジウム対策の必要性の指標となる菌が未だ検出されないため、現状では対策の検討をしなかった。				
	実施後の値（単年度）	①　3　件	実施後の値（累積）	①　9　件	
		②　10　件		②　49　件	

3　事業の分析（CHECK）

進捗状況	☐　目標の進捗を上回る　☑　目標どおりの進捗　☐　目標の進捗を下回る				
説明	浄水場等の施設更新については、目標を概ね達成できた。				
	達成率（単年度）	①　100.00　%	達成率（累積）	①　100.00　%	
		②　66.67　%		②　66.22　%	

4　今後の方向性（ACTION）

事業の方向性	☑　中間見直し通り推進　☐　見直しの必要あり　☐　中止	
今後の取組方針	総合評価	A
	片田浄水場の更新については、急速ろ過設備や薬品注入設備などの更新を計画的に進める。 また、令和４年度に整備した水道施設台帳を活用し、アセットマネジメントを実践することにより、計画的・効率的に施設の拡充・更新を行っていく。 なお、クリプトスポリジウム対策（紫外線処理設備の導入）については、対策が必要となる指標菌が検出されないことから、引き続き水質状況を監視しながら対応していく。	

5　津市上下水道事業経営審議会の意見

評定	適正	説明・意見	

令和４年度　第２次津市水道事業基本計画評価シート

１　計画概要（PLAN）

計画コード	20-01-03-04

所管する所属	上下水道管理局（経営企画課・上下水道管理課）		
基本理念	01 持続する水道	計画関連ページ	P37,P45
目指す目標	03 水道運営基盤の強化（持続）		
推進する実現方策	04 運営管理の強化		
推進する実現方策を達成するための主な施策	研修制度の充実 効率的な組織体制の確立とジョブローテーション、人員の適正配置 ＩＣＴの推進による業務の効率化 再雇用の拡充 広域連携の推進		

指標	①　技術力向上のための外部研修参加人数			
	②　－			
目標値	単年度	①　25　人	令和９年度（計画最終年度/累積）	①　250　人
		②　－		②　－

２　実施結果（DO）

実施した主な事業	【研修制度の充実】 熟練職員の退職に伴い水道事業を熟知した技術職員や企業会計を理解した職員が減少していることから、外部研修を受講させ職員の育成を図った（２８人が受講）。 【組織体制の確立】 令和２年度の組織改編から３年目を迎え、業務量や人員配置について課題等を見ながら改善に努めている。 【ICTの推進】 浄水場や配水池に設置されている遠方監視設備について、携帯、PC等のモバイル端末でトレンドが見れる機能を増設するなどの機能増設工事を実施した。 【広域連携の推進】 水道事業を熟知した技術職員等の不足は他の事業体でも課題となっていることから、災害時の広域連携（衛星携帯電話を用いた情報伝達訓練）、技術の伝承（各種研修の受講など）について、他の事業体と情報交換を行い技術水準の確保に努めた。			
	実施後の値（単年度）	①　28　人	実施後の値（累積）	①　113　人
		②　－		②　－

３　事業の分析（CHECK）

進捗状況	☐　目標の進捗を上回る　☑　目標どおりの進捗　☐　目標の進捗を下回る			
説明	水道事業を熟知した技術職員が減少する中において、技術伝承を目的とする外部研修等に参加するとともに他の事業体と情報交換を行った。			
	達成率（単年度）	①　112.00　%	達成率（累積）	①　45.20　%
		②　－　%		②　－　%

４　今後の方向性（ACTION）

事業の方向性	☑　中間見直し通り推進　☐　見直しの必要あり　☐　中止	
今後の取組方針	総合評価	A
	職員が減少することにより、漏水事故等への対応や当該計画の進捗に影響が出ることを懸念しており、職員の育成にも影響がでていることから、少なくとも現在の職員数が確保されるよう関係部局と引き続き協議を行うとともに、業務の効率化を図り将来の水道事業を担う若手職員が外部研修等へ参加しやすい環境整備を図る。また、広域連携については、引き続き意見交換ができる場である研修会等へ参加し、技術水準の確保に努める。	

５　津市上下水道事業経営審議会の意見

評定	一部不適正	説明・意見	

令和４年度　第２次津市水道事業基本計画評価シート

1　計画概要（PLAN）

計画コード	20-01-03-05

所管する所属	上下水道事業局（水道工務課）・上下水道管理局（上下水道管理課）		
基本理念	01 持続する水道	計画関連ページ	P37,P45,P46
目指す目標	03 水道運営基盤の強化（持続）		
推進する実現方策	05 給水サービスの向上		
推進する実現方策を達成するための主な施策	定期的な漏水調査の実施と修繕（修繕対策の充実） 広報紙やホームページを活用した情報提供の充実		

指標	①	年間の漏水調査実施延長（目標値の単年度は、管路延長2,532㎞÷7年間を示す。）			
	②	―			
目標値	単年度	① 362 ㎞	令和９年度（計画最終年度/累積）	① 3,620 ㎞	
		② ―		② ―	

2　実施結果（DO）

実施した主な事業	【漏水調査の実施】 漏水防止対策として老朽管の更新及び漏水調査は大変重要であり、定期的かつ計画的に実施することで有収率の向上に努めている。当該計画では管路全体延長2,532㎞を集落単位等の作業範囲を設定し、年度ごとに増減があるものの7年間のサイクルで管路全体延長すべてを完了するよう漏水調査を実施している。令和４年度は、津地域ほか5地域（久居・一志・白山・美杉）の調査延長４７４㎞を実施した。 【広報紙等による情報提供の充実】 水道事業の現状、課題、取組み、将来の見通しについて、「水道だより」をシリーズ化して４回発行（5月、８月、１２月、３月）した。				
	実施後の値（単年度）	① 474 ㎞	実施後の値（累積）	① 2,512 ㎞	
		② ―		② ―	

3　事業の分析（CHECK）

進捗状況	☑ 目標の進捗を上回る　☐ 目標どおりの進捗　☐ 目標の進捗を下回る				
説明	令和4年度実施した市内漏水調査業務委託で120カ所の漏水が発見され、発見箇所すべてにおいて修繕を完了した。7年間ですべての管路延長の漏水調査を完了する見込みである。また、広報活動により水道事業に係る課題や経営状況、水道施設の大規模改修や更新及び暮らし関わる給水等について情報発信を行った。				
	達成率（単年度）	① 130.94 %	達成率（累積）	① 69.39 %	
		② ― %		② ― %	

4　今後の方向性（ACTION）

事業の方向性	☑ 中間見直し通り推進　☐ 見直しの必要あり　☐ 中止	
今後の取組方針	総合評価	A
	水道事業者として「安全・安心な水道水を安定的に供給し続ける」責務を果たすべく漏水調査を継続する。また、水道事業に係る経営状況や課題等について、広報誌以外の媒体（ホームページ、イベント啓発）を活用するなど積極的な情報発信を行い水道利用者に対して丁寧な説明を行っていく。	

5　津市上下水道事業経営審議会の意見

評定	適正	説明・意見	

令和４年度　第２次津市水道事業基本計画評価シート

１　計画概要（PLAN）

計画コード	20-01-03-06

所管する所属	上下水道事業局（水道工務課・水道施設課）・上下水道管理局（経営企画課・上下水道管理課・営業課）		
基本理念	01 持続する水道	計画関連ページ	P37,P47
目指す目標	03 水道運営基盤の強化（持続）		
推進する実現方策	06 経営の健全化		
推進する実現方策を達成するための主な施策	民間活力の導入による人材・ノウハウの確保 組織体制の見直しによる適正な人員配置 各種行動指針などに基づいた工事コストの縮減 遊休資産の活用などの検討 漏水調査の実施と修繕による有収率の向上 経営の効率化に向けた業務評価制度や新たな経営手法の調査・研究 適正な水道料金への見直し		

指標	①	類似団体平均値の料金回収率（料金回収率＝供給単価÷給水原価×100） ※　供給単価は有収水量1㎥当たりの料金収入、給水原価は有収水量1㎥当たりに要した費用。
	②	－

目標値	単年度	①	109.14　％	令和９年度（計画最終年度）	① 106.20　％
		②	－		② －

２　実施結果（DO）

実施した主な事業	【民間活力の導入】 三雲浄水場及び高茶屋浄水場を運転管理の第三者委託に、付帯業務である自家用電気工作物保安管理、消防設備点検、場内の除草・処分、材料や燃料等の購入及び軽微な修繕等を含め包括委託を実施している。 【各種行動指針などに基づいた工事コストの縮減】 ・工事コストの低減 早期発注による発注の平準化、工事規模の拡大、建設副産物の発生抑制及び再生資源の利用促進を図っている。 ・工事の時間的コストの低減 他事業との連携及び優先度を考慮した管路更新を行っている。 ・ライフサイクルコストの低減 ライフサイクルコストの低減（施設の長寿命化）方針による設計を行っている。 ・工事における社会的コストの低減 建設副産物の発生抑制、再生資源に資する資材の利用の推進及びCO2の抑制に配慮した建設機械の採用を行っている。 ・工事の効率性向上による長期的コストの低減 早期発注による発注の平準化、工事規模の拡大、建設副産物の発生抑制及び再生資源の利用促進を図っている。 【遊休資産の活用などの検討】 令和４年度に土地１件の売却を広告したが、購入希望者がなく入札中止となった。 【経営の効率化】 経営比較分析表（令和３年度決算）を公表するとともに、類似事業体等との比較・分析を行った。 【適正な水道料金への見直し】 令和４年４月１日に、約２８％の増額となる料金改定を実施した。				
	実施後の値（単年度）	①	111.49　％	実施後の値	① 111.49　％
		②	－		② －

３　事業の分析（CHECK）

進捗状況	☐　目標の進捗を上回る　☑　目標どおりの進捗　☐　目標の進捗を下回る				
説明	令和４年４月１日に、約２８％の増額となる料金改定を実施したことにより、料金回収率が改善した。				
	達成率（単年度）	①	102.15　％	達成率	① 104.98　％
		②	－　％		② －　％

４　今後の方向性（ACTION）

事業の方向性	☑ 中間見直し通り推進　　□ 見直しの必要あり　　□ 中止
今後の取組方針	総合評価　A 料金改定により、料金回収率は改善したが、今後も引き続き経費の削減に努め、経営の健全化を図る。 遊休資産のうち、有効活用が可能な物件については、土地の貸付又は売払いを積極的に行っていく。

５　津市上下水道事業経営審議会の意見

評定	適正	説明・意見	

令和４年度　第２次津市水道事業基本計画評価シート

１　計画概要（PLAN）

計画コード	20-01-03-07

所管する所属	上下水道事業局（水道工務課・水道施設課）・上下水道管理局（上下水道管理課）		
基本理念	01 持続する水道	計画関連ページ	P37,P47
目指す目標	03 水道運営基盤の強化（持続）		
推進する実現方策	07 環境・エネルギー対策		
推進する実現方策を達成するための主な施策	環境にやさしい低公害車の導入 冷暖房温度の配慮と休憩時間における照明の消灯を推進 自然エネルギー（水力）の導入についての調査・研究 再生資機材の利用 建設発生土などの再利用		

指標	①　低公害車の導入台数			
	②	―		
目標値	単年度	①　３　台	令和９年度（計画最終年度/累積）	①　11　台
		②　―		②　―

２　実施結果（DO）

実施した主な事業	【低公害車の導入、冷暖房温度、消灯の推進】 国が定める低排出ガス基準を満たす車両を導入した。また、時間外における冷暖房使用の抑制及び照明の消灯を徹底した。 【自然エネルギー（水力）の導入についての調査・研究】 水道施設間の高低差によるエネルギーを利用した発電設備について、現在の施設内で設置可能な設備を調査した。 【再生資機材の利用、建設発生土などの再利用】 水道事業で実施する工事において、再生資機材の利用、建設発生土の抑制及び再利用を推進している。			
	実施後の値（単年度）	①　３　台	実施後の値（累積）	①　４　台
		②　―		②　―

３　事業の分析（CHECK）

進捗状況	☐　目標の進捗を上回る　☑　目標どおりの進捗　☐　目標の進捗を下回る			
説明	冷暖房使用の抑制及び照明の消灯については、庁舎利用における電気使用量が前年度から削減でき、目標を達成できた。また、当該年度にリース替えの対象となった車両については、国が定める低排出ガス認定を受けた車両を導入できた。			
	達成率（単年度）	①　100.00　％	達成率（累積）	①　36.36　％
		②　―　％		②　―　％

４　今後の方向性（ACTION）

事業の方向性	☑　中間見直し通り推進　☐　見直しの必要あり　☐　中止	
今後の取組方針	総合評価	A
	令和５年度以降、購入車両については、年式が古い車両から順次、国が定める最新の低排出ガス基準を満たすものを計画的に導入していく。	

５　津市上下水道事業経営審議会の意見

評定	適正	説明・意見	